

株式会社LIXIL 様

販売管理システムの夜間バッチ処理時間を1/2以下に短縮
垂直統合型商品の採用により短期稼働を実現

快適な住まいと暮らしの実現を目指すLIXIL。同社は中期経営計画に基づく改革により、販売管理システムの処理データの倍増が見込まれる中、性能向上と短期稼働を目的に垂直統合型データベースシステムPRIMEFLEX for Oracle Databaseを導入しました。Oracle Databaseの性能を最適化する設計・チューニング済みのため、納品からわずか1カ月半で本稼働を実現。夜間バッチ処理時間が既存システムと比べて半分以下となったことで、始業前に営業に対し実績データの提供を可能にします。またオンラインレスポンスも1/6に短縮しシステム利用者の満足度も向上。安定稼働と性能向上で同社4,000人の営業活動を支えています。



「PRIMEFLEX for Oracle Databaseは、データベースシステムの設計・チューニングに要する作業や時間を大幅に削減できます。またチューニング済みのため性能がどのくらい向上するのかがわかりやすい。Oracle Databaseシステム性能アセスメントで富士通から性能向上の情報を提供してもらい、さらに実際に事前検証で確認できれば迅速に構築フェーズに入れます」

課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ データ量の倍増が見込まれる中、夜間バッチ処理を高速化し、始業前に実績データを営業に提供したい ■ 短期でハードウェアをリプレースし、本稼働を実現したい ■ 短期稼働であっても安全かつ確実に移行したい 	効果	<ul style="list-style-type: none"> ■ PRIMEFLEX for Oracle Databaseの導入により夜間バッチ処理時間が平均で1/2以下に。データ量の倍増にも対応できる処理性能を確保し、始業前に営業に実績データの提供を可能に ■ サーバ、ストレージ、ネットワーク機器を組み合わせ、設計・チューニングを実施済みのため、納品からわずか1カ月半で本稼働 ■ 事前検証で性能を評価。現行システムと並行稼働して細部を確認することで、本稼働後はトラブルが一切なく安定稼働を実現
-----------	---	-----------	---

業種	住宅、ビル、商業施設等の建材・設備機器の製造・販売
対象システム	販売管理システム
製品	垂直統合型 高速Oracle Database基盤 FUJITSU Integrated System PRIMEFLEX for Oracle Database FUJITSU Storage ETERNUS CS800 S6 デューブアプライアンス

導入の背景

詳細なデータ管理のため
販売管理システムで扱うデータが2倍に

2011年、国内の主要な建材・設備機器メーカーの5社が統合して誕生したLIXIL。業界をリードする数々のブランドを有し、戸建住宅、マンション、オフィス、商業施設などに対し建材・設備機器や住関連サービスを提供しています。世界の住生活産業を牽引するLIXILグループは世界150カ国以上で事業を展開しており、毎日10億人を超える人々が同社の製品やサービスを利用しています。また世界で約600万人の衛生環境の改善に貢献（2017年3月末時点）するなど、グローバルな衛生課題の解決に向けた取り組みにも積極的です。



西田 正光氏
株式会社LIXIL
情報システム本部
営業システム統括部
営業システム推進部
主幹

LIXILグループでは中期経営計画（2017年3月期～2021年3月期）のもと持続的成長の実現に向けて組織改革や体質改善を進めています。同グループのICTを担うLIXILの情報システム本部における重点活動方針について、情報システム本部 営業システム統括部 営業システム推進部 主幹 西田正光氏はこう話します。

「2017年度の重点テーマは大きく2つありま

す。1つめが運用コストの削減と生産性の向上です。その実現と社内へのノウハウの蓄積を目的に内製化を進めています。2つめが人材育成です。スタッフの一人ひとりが専門技術を有するプロ化を目指しています」。

中期経営計画に基づき様々な改革を推進していくうえで、顧客データや販売データなどをより詳細に管理することが必要となるため、2018年4月から販売管理システムのデータ量が2倍に増加する見込みとなっています。そのため、2017年12月までに既存販売管理システムの老朽化したハードウェアをリプレースし、性能向上を図ることが不可欠でした。2017年6月、リプレースに向けてプロジェクトがスタートした時点ですでに稼働まで半年を切っていました。

導入のポイント

データ量倍増に応える性能向上と
短期稼働が選定のポイント

同社の販売管理システムは、販売実績、売上、利益、数量を中心に、得意先、顧客別、品種別、組織別の大きく4軸で計画対比、前年対比、予実対比、販売動向などを見ることが出来ます。利用者は約3,000名の営業担当と、管理者を含めた関係者約1,000名と合わせて4,000名です。販売管理の利用シーンについて情報システム本部 営業システム統括部 営業システム推進部 業績管理システムG グループリーダー 阿部義和氏はこう話します。「営業担当は始業の前に販売管理システムにアクセスし、今月の売上目標と今の段階での実績を



阿部 義和氏
株式会社LIXIL
情報システム本部
営業システム統括部
営業システム推進部
業績管理システムG
グループリーダー

比較し、残りの日数でどれだけ達成しないといけないのかを、受注残を見て計画を立てています」。始業前に営業担当が実績を確認するために、前日データの夜間バッチ処理を朝の7時30分までに終了させる必要があります。「基幹システムで処理が終わり販売管理システムにデータが渡るのが深夜2時頃です。始業時の直前までバッチ処理を行っていたり、アプリケーションによっては間に合わないものもでてきていました」（阿部氏）。

またアプリケーションに手を入れず安全に切り替えることも前提条件でした。「ハードウェアのリプレイスによる性能向上で、データ量の倍増が見込まれる夜間バッチ処理を始業前に終了できることが製品選定のポイントとなりました。また短期間でスムーズかつ確実に移行することも必須でした。富士通さんに相談したところ、垂直統合型データベースシステムPRIMEFLEX for Oracle Databaseの提案がありました」（阿部氏）。

期間でスムーズかつ確実に移行することも必須でした。富士通さんに相談したところ、垂直統合型データベースシステムPRIMEFLEX for Oracle Databaseの提案がありました」（阿部氏）。

とを確認後、すぐに発注しました。2週間で構築し、1カ月間現行システムと並行稼働しながら細部の確認を行いました」（世古口氏）。

短納期であっても安全かつ確実に移行できたポイントについて、「ハードウェアとデータベースの両面で高い技術を有し統合製品を提供する富士通さんと当社との間で課題を共有し、解決に向けてチームとして取り組みました。並行稼働期間で課題を解決できたことで、本稼働後、トラブルは一切起きていません」（阿部氏）。



世古口 純氏
株式会社LIXIL
情報システム本部
技術開発部
システムサービス
マネジメントG
主査

導入の効果と将来の展望

夜間バッチ処理時間は1/2以下、
オンラインレスポンスは1/6に短縮

PRIMEFLEX for Oracle Databaseの納品からわずか1カ月半の2017年11月中旬に新販売管理システムが本稼働しました。「旧システムも富士通さんのUNIXサーバを利用していましたが、トラブルは一切ありませんでした。今回も安定稼働を続けており大きな信頼を寄せています」（阿部氏）。

データ量の倍増が見込まれる中、「余裕をもって対応できる」と阿部氏は話します。「並行稼働時に新旧システムの性能を比較しました。夜間バッチ処理時間は最大1/3、平均で半分以下に短縮できました。またオンラインレスポンスも、集計結果を表示する時間が1/6になりシステム利用者から非常に喜ばれています。半期累計のデータが溜まってくる3月を過ぎてても性能に変化はありません」（阿部氏）。

今回、Disk to TapeからDisk to Diskにバックアップの仕組みを変え、バックアップストレージに重複排除機能を持つETERNUS CS800 S6を導入することで、従来6時間を要していたバックアップが半分の3時間に短縮できました。またETERNUS CS800 S6を使用することにより検証環境を容易に復元できるため、開発業務の効率化が図れます。

今後の展望について西田氏はこう話します。「安定稼働とデータ量増大への対応は今後も変わらず重要なテーマです。PRIMEFLEX for Oracle Databaseのバックボーンに、ハードウェア、OS、Oracle Databaseといったそれぞれに専門技術とノウハウを持つ、富士通さんのスペシャリストが控えているということが大きな安心と信頼をもたらしています」。

世界中の人々の豊かで快適な住生活の未来に貢献するLIXIL。富士通はこれからも先進技術と総合力を駆使し同社の取り組みを支援していきます。

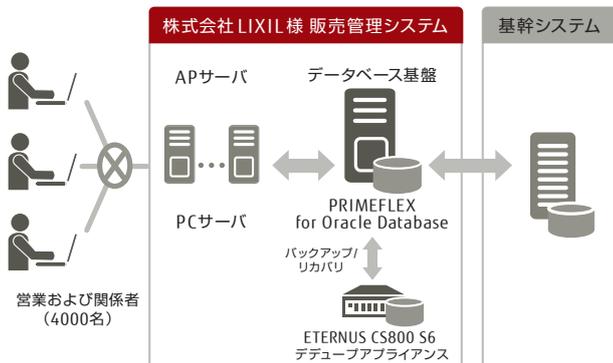
導入のプロセス

事前検証で性能を評価、
納品後わずか1カ月半で本稼働を実現

PRIMEFLEX for Oracle Databaseは、世界最高クラスのコア性能を備えた最新プロセッサ「SPARC64 XII」を採用したサーバ、Flash構成のストレージ、ネットワーク機器を組み合わせ、Oracle Databaseの性能を最適化する設計・チューニングを実施済みです。垂直統合型データベースシステムのメリットについて情報システム本部 技術開発部 システムサービスマネジメントG 主査 世古口純氏はこう話します。

「求める性能を実現するためには、サーバやストレージなどを組み合わせ検証しながら評価しチューニングを行うことが必要です。PRIMEFLEX for Oracle Databaseは、データベースシステムの設計・チューニングに要する作業や時間を大幅に削減できます。またチューニング済みのため性能がどのくらい向上するのかわかりやすい。Oracle Databaseシステム性能アセスメントで富士通から性能向上の情報を提供してもらい、さらに実際に事前検証で確認できれば迅速に構築フェーズに入れます」。

2017年8月、同社は富士通のサポートのもと、検証施設である富士通デジタル・トランスフォーメーション・センターで、実際のデータを使ってデータベースや業務アプリケーションを利用し性能評価を実施。「求めていた性能がでたこ



会社概要

株式会社LIXIL

本店所在地 〒136-8535 東京都江東区大島2-1-1
本社事業所 〒100-6036 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号
霞が関ビルディング36階
代表取締役社長 瀬戸 欣哉
設立 2001年10月1日
資本金 34,600百万円
従業員数 14,527名 (2017年3月末現在)
事業概要 建材・設備機器の製造・販売およびその関連サービス業
ホームページ <http://www.lixil.com/jp/>



・本事例中に記載の肩書や数値、固有名詞等は取材当時のものであり、閲覧される時点では、変更されている可能性があることをご了承ください。
・OracleとJavaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

お問い合わせ先

富士通コンタクトライン（総合窓口） **0120-933-200**
受付時間 9:00～17:30（土・日・祝日・当社指定の休業日を除く）

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

株式会社ライフコーポレーション様

全国 232 店舗の業務を支える統合仮想化基盤を構築
重複排除でデータを最大 90% 圧縮、災害対策対応も視野に

国名	日本
業種	食品スーパーマーケット
ハードウェア	FUJITSU Storage ETERNUS DX410 S2 ミッドレンジディスクアレイ FUJITSU Storage ETERNUS CS800 S3 デデュープアプライアンス FUJITSU Storage ETERNUS NR1000 F2240 FUJITSU Storage ETERNUS SN200 ファイバチャネルスイッチ FUJITSU Server PRIMERGY RX300 S6 PC サーバ FUJITSU Server PRIMERGY RX200 S6 PC サーバ

課題	<ul style="list-style-type: none"> ■コスト削減を目的にサーバ、ストレージの統合を図りたい ■統合仮想環境においてバックアップ保存効率を高めたい ■業務で快適に利用できる高速性と高信頼性を実現したい 	➤	効果	<ul style="list-style-type: none"> ■業務システムを対象にサーバ、ストレージの統合仮想化基盤を構築。初期投資コスト 37% 削減、保守コスト 64% 削減など想定以上の導入効果を実現 ■「ETERNUS CS800 S3」の重複排除機能によりバックアップデータを最大 90% 圧縮、効率的なバックアップ運用を実現。高い圧縮率と遠隔コピー機能を活用した災害対策も視野に ■高性能な統合ストレージ「ETERNUS DX410 S2」を導入し FC 接続により高速性を実現。また高い信頼性により全国 232 店舗 3 万人の業務を支える
-----------	---	---	-----------	---

「仮想環境でシステムバックアップを行っているため重複排除率が高く、圧縮率は最大 90% を達成しています。また物理サーバに関しても ETERNUS CS800 S3 でバックアップしており、物理、仮想を問わずシステムバックアップとデータバックアップの一元管理を実現しています」

食品スーパーマーケットの大手、ライフコーポレーションは、業務システムを対象にサーバ、ストレージ統合仮想化基盤を構築。全国 232 店舗の業務データを守る統合ストレージに高信頼・高性能の「ETERNUS DX410 S2」を採用。またバックアップストレージに重複排除機能を持つ「ETERNUS CS800 S3 デデュープアプライアンス」を採用。バックアップデータを最大 90% 圧縮し、災害対策システムへの展開も視野に入れ取り組まれています。

※記載の店舗数は 2013 年 5 月時点のものです。

導入の背景

400 店舗を目指す上でサーバ、ストレージの統合は不可欠

日常生活のライフラインを支える食品スーパーマーケット。1956 年創業、近畿圏、首都圏を中心に 232 店舗（2013 年 5 月末）を展開するライフコーポレーションは、地域社会の生命線を担っているという高い使命感のもとで事業を行っています。お客様との信頼関係をベースに「よい商品、よいお店、よいサービス」をモットーに成長する同社が目指すのは、400 店舗、売上高 8,000 億円企業です。次世代フラッグシップ店として、2013 年 11 月の新本社移転に合わせて西宮原店がオープン、2015 年には東京スカイツリーそばに押上店の開店が予定されています。

次世代へさらなる飛躍に向けて 2012 年度よりスタートした第四次中期 3 年計画では、働き方の改革と、出店、商品、顧客満足向上、コスト適正化、次世代対応の 5 つの戦略を掲げています。この 5 つの戦略を実現していく上で ICT の活用は重要なポイントとなります。近年、特に懸案となっていたのが、コスト削減と事業環境の変化に応える次世代 ICT インフラの構築でした。

「2009 年頃、サーバ台数が急増する業務システムに関してサーバ、ストレージ統合



株式会社ライフコーポレーション
執行役員 経営企画本部長 兼
情報システム部 部長
山本 憲史氏

の検討を開始しました。400 店舗を目指す上で、コスト削減を図りながら、事業の拡大に対し効率的かつ柔軟に対応できる ICT インフラの構築は不可欠でした」と執行役員 経営企画本部長兼情報システム部 部長 山本憲史氏は話します。

導入のポイント

統合仮想化基盤の構築パートナー選定では提案力と総合力が決め手に

同社の業務システムは人事勤怠、給与、会計、グループウェアなど 40 システムに及び、業務ごとに最適化したことでサーバ台数が増加し、運用コストの増大、運用管理の複雑化を招く要因となっていました。また事業環境の変化への対応面でも課題がありました。

「従来の 1 システム 1 サーバではストレージを増やす場合、システムを止める必要があったのですが、次世代 ICT インフラでは業務を継続しながら拡張できることが求められます。またリソースの最適化もテーマとなります。コスト削減の観点からは、ハードウェアとソフトウェアを切り離した運用の実現も不可欠でした」と同部 担当課長 山根康裕氏は振り返ります。



株式会社ライフコーポレーション
情報システム部 担当課長
山根 康裕氏

現状と将来を見据え、同社が出した結論が、仮想化を活用したサーバ、ストレージの統合でした。2011年5月、同社は統合仮想化基盤のRFP（提案依頼書）を提出。複数社の提案の中から次世代ICTインフラの構築パートナーとして富士通を選択しました。その理由について「富士通の提案は上手くコスト削減を図りながら、当社の要望を満たした上で災害対策など提案内容が充実していました。またVMwareの豊富な実績やノウハウに加え、マルチベンダー環境におけるワンストップサポートによる安心感も選択の理由になりました」と情報システム部 課長 曾我部優寛氏は語ります。

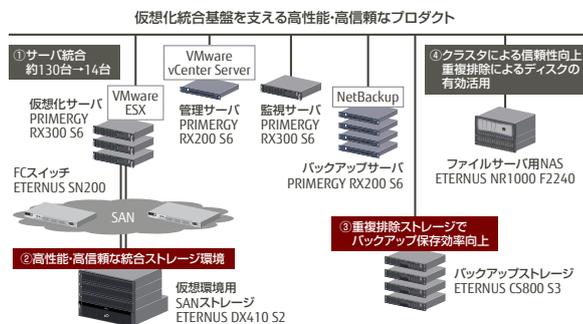


株式会社ライフコーポレーション
情報システム部 課長
曾我部 優寛氏

システムの概要 バックアップストレージは重複排除機能と拡張性を重視

今回の採用では、ストレージの選定も重要な要素でした。「仮想化により、物理サーバと比べてスピードが遅くなるのが懸念されました。その要因にはストレージのI/O部分のボトルネックが考えられるため、統合ストレージでは性能を重視しました。また3万人が利用することから高い信頼性も欠かせません。バックアップのストレージでは、重複排除機能とスケールアウトをポイントにしました。統合仮想化基盤への移行は物理サーバのリプレースに合わせて段階的に実施されるため、将来のデータ増加も考慮しストレージには拡張性も求めました」と同部 課長代理 竹村伸司氏は話します。

統合仮想化基盤の概要は、仮想化ソフトウェアVMware vSphereを活用し、約100台の物理サーバを14台のPCサーバ「PRIMERGY RX300 S6」に集約、約25のシステム、130台の仮想OSが稼働します。統合ストレージには高性能・高信頼性、優れた拡張性を有する「ETERNUS DX410 S2」を採用し、FC（ファイバチャネルスイッチ）接続により高速性および高可用性を実現。また、重要度が高くスピードが求められる仮想OSはRAID 1+0、通常の仮想OSはRAID 6と使いわけすることでディスクの容量効率性を追求しています。バックアップストレージにはデータの重複排除と圧縮により、効率的なバックアップを実現する「ETERNUS CS800 S3」を採用。当初2台でスタートし、現在スケールアウトで4台に拡張しています。統合仮想化基盤への移行は、検証用ネットワークを作成し業務アプリケーションやバックアップなどの検証を行うことでスムーズな本番環境への移行を実現しました。



導入の効果と今後の展望

想定以上の導入効果を実現、バックアップのデータ容量も最大90%圧縮

2012年2月、統合仮想化基盤が本稼働。1年半が経過した現在、安定稼働を続けており、当初想定していた以上の好結果があらわれています。「初期投資コストは37%、保守コストは64%、光熱費・運用コストは44%、スペースも約1/2に削減できました」（山根氏）。

ストレージの導入効果も顕著です。「仮想環境でシステムバックアップを行っているため重複排除率が高く、圧縮率は最大90%を達成しています。また物理サーバに関してもETERNUS CS800 S3でバックアップしており、物理、仮想を問わずシステムバックアップとデータバックアップの一元管理を実現しています。これはBCP（事業継続計画）の観点から、将来、ETERNUS CS800 S3の遠隔コピー機能を活用した災害対策システムへの展開を視野に入れているためです。ETERNUS CS800 S3の高い圧縮率ならネットワークコストの抑制も期待できます」（竹村氏）。

従来、バックアップはテープバックアップ装置を活用していましたが、「ETERNUS CS800 S3」はディスクベースのためテープの交換や保管する必要もなく運用コストの削減が図れました。また今回、各拠点に分散していたファイルサーバをネットワークディスクアレイ「ETERNUS NR1000F series」に統合し運用の効率化を図るとともに、重複排除機能を活用したディスクスペースの有効活用や、クラスターによる高信頼性も実現しています。

今後について「コスト削減はこれからも検討課題です。富士通には統合仮想化基盤の安定運用のサポートに加え、ビッグデータの活用など経営面の支援にも積極的な提案をお願いいたします」と山本氏は話します。

「志の高い信頼の経営」を通じて社会の発展向上に貢献するライフコーポレーション。同社の信頼を担う基盤を、これからも富士通は先進技術と総合力で支えていきます。



株式会社ライフコーポレーション
情報システム部 課長代理
竹村 伸司氏

会社概要

株式会社ライフコーポレーション

所在地 : <大阪本社> 〒533-8558 大阪市東淀川区東中島1-19-4
<東京本社> 〒110-0016 東京都台東区台東1-2-16

創業 : 1956年10月24日(1961年11月 大阪府豊中市に第一号店開店)

代表者 : 代表取締役社長 岩崎 高治

売上高 : 5,050億4百万円(2013年2月期)

従業員 : 19,894人(2013年2月現在、パートタイマーは8時間換算)

店舗数 : 232店舗(2013年5月現在) 近畿圏132店舗、首都圏100店舗

事業内容 : 食品を中心としたスーパーマーケットチェーン

URL : <http://www.lifecorp.jp/>

本コンテンツに記載されている会社名・製品名等は、各社の商標または登録商標です。本コンテンツに記載されている会社名・製品名等は、必ずしも商標表示していません。本コンテンツに記載の肩書きは、取材当時のものです。

お問い合わせ先

富士通コンタクトライン **0120-933-200**

受付時間 9:00~17:30(土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター

株式会社ライトオン様

重複排除により日次の二次バックアップを実現
事業継続性が向上し全国 481 店舗の笑顔を守る

国名	日本
業種	流通 / 小売業
ハードウェア	ETERNUS CS800 S3 デデュープアプライアンス ETERNUS DX410 S2 ディスクアレイ ETERNUS SN200 モデル 600 ファイバチャネルスイッチ PRIMERGY BX920 S2 ブレードサーバ

課題	<ul style="list-style-type: none"> ■ 万一のときに速やかに復旧を図りたい ■ バックアップにおける容量不足を解消したい ■ 東日本大震災を契機に事業継続性を高めたい 	効果	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日次 7 世代分のデータを毎日「ETERNUS CS800 S3」に二次バックアップ。万一のときも最新のデータをもとに迅速に復旧 ■ 「ETERNUS CS800 S3」の重複排除機能によりデータの 83% を削減し、日々増え続けるデータの効率的なバックアップを実現 ■ 富士通の堅牢なデータセンターにハウジングし新 SAP システムを構築。災害や雷などによる停電時もビジネスを止めない ICT インフラを確立
----	---	----	---

「万一、SAP システムが停止すると当社のビジネス活動はできなくなります。既存のシステムでもバックアップは行っていたのですが、確実に復旧できるのかといった不安や、事業再開までに時間を要するだろうことも課題の一つでした」

ジーンズカジュアルショップを全国展開するライトオン。同社は東日本大震災を契機に事業継続の観点から基幹業務を担う SAP システムを富士通の堅牢なデータセンターに移設し、合わせて SAP システムのリプレースを行いました。新システムでは「ETERNUS DX410 S2 ディスクアレイ」の高速コピー機能（OPC）で取得した日次 7 世代分のデータを毎日「ETERNUS CS800 S3 デデュープアプライアンス」に二次バックアップ。万一のときも最新のデータをもとに迅速な復旧を可能にしています。また重複排除によりバックアップのデータを大幅に削減し容量不足も解消。同社のビジネスを支える ICT インフラに安心安全をもたらし、全国 481 店舗のスタッフとジーンズを愛するお客様の笑顔を守っています。

※記載の店舗数は 2012 年 8 月時点のものです。

導入の背景 大震災を契機に SAP システムとバックアップの重要性を再認識

1980 年に 1 店舗のジーンズショップからスタートしたライトオン。「人々の生活を楽しく豊かにするため、世代を超え、愛され続けるジーンズの魅力を発信する」という企業理念のもと、現在、ショッピングセンターを中心に全国 481 店舗（2012 年 8 月時点）を展開しています。

ジーンズを中核に幅広い層のお客様に愛される品揃えと、家族がワンストップでショッピングを楽しめる店舗づくりが同社の強みです。ライトオンらしさをかたちにするために主カブランド「BACK NUMBER」をはじめ商品開発にも力を注ぎ、テレビコマーシャルなどを通じたブランド戦略も進めています。またレディースショップ「CHIME」など多業態展開も図っています。

事業が拡大してもお客様第一をモットーとする同社の現場主義は変わりません。そうした企業姿勢はジーンズカジュアル業界の競争に勝ち抜くための原動力となっています。

「ヒット商品が生まれにくくなっている現在、単発商品で売り上げを拡大するので



株式会社ライトオン
執行役員 経営企画部長
川崎 純平氏

はなく一つ一つの商品の売り上げを積み上げていくことが重要です。そのためには経営層に対するタイムリーな情報提供が欠かせません。当社では、SAP システムの活用により経営層が刻々と変化する全国店舗の売上情報などを把握し現場に軌道修正を指示します。それを受けた各店舗は時間単位で店舗の改善を行っています」と同社 執行役員 経営企画部長 川崎純平氏は話します。

現場の声を聞く毎週の定例会と、現場の状況を刻々と把握できる SAP システムは同社の経営における要です。同社が事業継続における SAP システムの重要性とバックアップの大切さを再認識する契機となったのが 2011 年 3 月 11 日の東日本大震災でした。

導入の経緯

日次 7 世代分のデータを毎日二次バックアップし 事業継続性の向上を図る

「大震災によって茨城県つくば市の同社サーバールームでラックが倒れた」という報告を受けた富士通はすぐに現場に駆けつけました。「富士通さんの対応は早かったですね。震災の翌日にはシステムをチェックし 2 日間で SAP システムは復旧できました」と同社 経営企画部 システム担当 濱田和広氏は振り返ります。

2011 年 12 月、同社では大震災での経験を踏まえ、事業継続の観点か

ら富士通の堅牢なデータセンターへの SAP システムの移設を決断。また同システムのリプレース時期も迫っていたため、移設後に新システムで SAP のアップグレードを行うことになりました。

新システムの構築にあたり、同社はバックアップを重要なポイントとしました。その理由について「万一、SAP システムが停止すると当社のビジネス活動はできなくなります。既存のシステムでもバックアップは行っていましたが、確実に復旧できるのかといった不安や、事業再開までに時間を要するだろうことも課題の一つでした」と川崎氏は話します。

従来、テープによる二次バックアップは週次で行い、金曜日の夜から日曜日の昼にかけ時間を要していましたが、バックアップデータ量も増え、時間超過による二次バックアップが終わらない懸念もはじめました。こうした課題に応えるために、新システムでは「ETERNUS DX410 S2 ディスクアレイ」の高速コピー機能 (OPC) で取得した日次 7 世代分のデータを、Disk to Disk で毎日「ETERNUS CS800 S3 デデュープライセンス」に二次バックアップする方式を検討しました。ただ日次のフルバックアップの実現には 7 世代分のデータ 20TB 以上の処理を 24 時間以内で完了しなければならず、容量不足も懸念されました。



株式会社ライトオン
経営企画部 システム担当
濱田 和広氏

築を開始し同年 10 月に新システムは本稼働しました。新システムは仮想化によりシステムを集約し、従来の 5 ラックから 2 ラックへと省スペース化を実現しデータセンター使用料の削減も図っています。またストレージ「ETERNUS DX410 S2」とブレードサーバ「PRIMERGY BX920 S2」による SAN Boot 構成をとり、万一の障害時には VMware HA 機能で予備ブレードへの自動切替を実現するなど事業継続性を高めています。

導入の効果と今後の展望

重複排除によりデータの 83% 削減を実現し容量不足を解消

新システムの稼働後、同社の周辺地域で雷による停電が起きましたが、「安心感は大きいですね。堅牢なデータセンターにシステムを移転したことで、災害や雷などによる停電時の事業継続性の向上が図れました。また日次のフルバックアップにより万一のときも速やかに事業を再開できます」(濱田氏)。

二次バックアップは従来の週次 45 時間を日次 14 時間に短縮。週次にテープで行っていたバックアップ作業をはじめテープの交換や保管といった手間もなくなり業務の効率化も実現できました。また重複排除によりデータの 83% 削減を実現し容量不足も解消。さらに「ETERNUS DX410 S2」のシンプロビジョニング機能により、今後 5 年後を見据えたストレージ容量への対応を可能にしつつ、ボリュームの容量を仮想化することでストレージの稼働率の向上も図れます。

今後の展望について「今回は事業継続がテーマでしたが、今後は、ICT の役割だった業務の効率化や経営の可視化など経営への貢献度を高めていきたいと考えています。当社の業務内容を深くご理解いただいている富士通さんには、当社の業績向上や業容拡大の視点からの提案もぜひお願いいたします」と川崎氏は語ります。

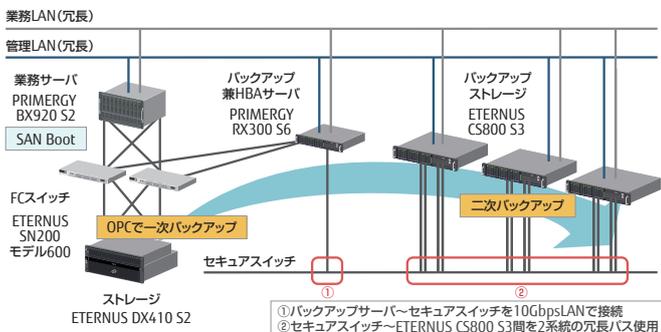
ジーンズカジュアルビジネスの未来を拓くライトオン。同社の事業継続の取り組みを富士通はこれからもストレージシステムの提供を通じて支えるとともに、総合力を駆使し同社のさらなる成長を支援してまいります。

導入のポイント

バックアップと重複排除の効率を高める工夫によりスムーズな運用を実現

二次バックアップを 24 時間以内で行うために「ETERNUS CS800 S3」のエントリーモデル 3 台を並列で利用するとともに、バックアップサーバとセキュアスイッチ間を 10GbpsLAN で接続、セキュアスイッチと「ETERNUS CS800 S3」間にそれぞれ 2 系統の冗長パスを使用し 10GbpsLAN の能力をフルに活かせる構成にしています。また業務ごとにバックアップ量が異なるため効率的なバックアップが行えるようにジョブフローを作成。さらに重複排除の効率を引き出すべくバックアップデータ種の組み合わせも工夫を施しています。

また「ETERNUS CS800 S3」は設定項目も少なく Web で設定できるため、バックアップ環境の構築工数の大幅な削減を実現。2012 年 4 月から構



会社概要

株式会社ライトオン

- 本社所在地 : 〒 305-8503 茨城県つくば市吾妻一丁目 11 番 1
- 代表者 : 代表取締役 横内達治
- 従業員数 : 854 名 (2012 年 8 月 20 日現在)
- 店舗数 : 481 店舗 (2012 年 8 月 20 日現在)
- 事業内容 : ・年齢・性別を超えた幅広いお客様にジーンズを中核アイテムとしたカジュアルウェアを販売する専門店
・ショッピングセンター、パワーセンター、駅ビル等のインショップ、都市型路面店及びロードサイド型店舗と様々な出店形態により全国チェーン展開
- URL : <http://right-on.co.jp/>



本コンテンツに記載されている会社名・製品名等は、各社の商標または登録商標です。本コンテンツに記載されている会社名・製品名等は、必ずしも商標表示していません。本コンテンツに記載の肩書きは、取材当時のものです。

お問い合わせ先

富士通コンタクトライン **0120-933-200**

受付時間 9:00~17:30 (土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター